

商工会女性部はまちに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

女性部が開発した 郷土料理の特産品で 地域の活性化に貢献

ほばらまち
保原町商工会女性部(福島県伊達市)



「♪保原名物 チョイと 豆っこ音頭」と、宮崎県で行われた商工会女性部全国大会(主張発表大会)で私たちが開発した「豆っこ汁」を皆様にご紹介し、最優秀賞の歓喜に湧いたあの日から、17年の月日が流れました。

「豆っこ汁」とは、ジャガイモと青ばた大豆でつくった団子と野菜が入った郷土料理で、毎晩、夜遅くまでその製造に奔走した日々が懐かしく思い出されます。

地産地消と部員の手づくりこだわった製品でしたが、現在ではその主体を公社に移行し、製造を民間に委託して、地元産品「豆っこ」(団子)と「豆っこ汁」(団子、野菜、スープのセット)として存続を図ってきました。その後、国内大手航空会社の機内食に採用されるなど、少しずつ新たな販路が拡大。私たち女性部でも、販売やPRなどの企画に参加することでその活動を今につながっています。

親会・青年部・壮青年部 との連携で部員増強と 貯蓄共済を強力に推進

おおのじょうし
大野城市商工会女性部(福岡県)



商工会理事会で家族の女性部加入の協力を呼びかける女性部長



そして今年、待望の新商品が誕生しました。地元レストランシェフ監修によるイタリアン系「もちもち豆っこラグーンズラザニア」と「もちもち豆っこ濃厚チーズクリームソース」です。新商品はテレビ局をはじめとした各メディアで、「豆っこ」の歴史とともに紹介され話題となりました。おふくろの味を求めて開発した「豆っこ汁」から素敵なイタリアン商品が



ででき上がり、女性部の活動にも新しい光が射し込んできたかのような思いです。「豆っこ」は、女性部の保原町を大切に思う心と、何かまちおこしに通じるものをつくりたいという願いから誕生しました。これからも保原町の活性化の一助となるよう、部員が元気で仲よく力を合わせて活動していきたいと思えます。

上/福島テレビ『サタふく』のコーナー「浜ちゃんぽ」の取材で浜中アナウンサーと撮影
左/PRキャラクターの「まめっち」 右/「豆っこ汁」とイタリアンの新商品



会員加入説明の様子
(女性部への加入をきっかけに商工会へも加入)

大野城市は、わが国最古の朝鮮式山城「大野城」に由来し、今も人工の土塁「水城」が残っています。また、福岡市の南に隣接し交通の便に恵まれた地域で、自然と都市の調和が保たれた住みやすいまちです。私たち女性部は、長年「おおの山城大文字まつり」への出店、産業展でのバザー、市内清掃活動、青年部との献血事業などで活動していますが、とくに2024年度は、商工会全体で推進した「会員加入・共済推進キャンペーン」をきっかけとして、部員増強と共済推進に積極的に取り組み、部員純増37人と貯蓄共済純増71口を達成することができました。

この成果は、女性部役員のリーダーシップと部員の協力はもちろん、親会や青年部・壮青年部役員との連携も大きな推進力になりました。また、加入推進だけでなく、女性部独自の名簿作成など、部員内の情報共有・交流促進にも力を入れています。2024年度末の部員数は128人になりましたが、22歳から96歳までの幅広い世代で構成されているのが特徴です。長年活躍してきた先輩部員は、経験を若い部員に伝え、若い部員からはデジタル化など新しい提案も出てきています。



多くの女性部員が貯蓄共済推進に協力